令和5年度

北播磨総合医療センター企業団病院事業会計決算審査及び資金不足比率審査意見書

北播磨総合医療センター 企業 団 監 査 委 員

目 次

Ι		番	査	の	種	類	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
П		審	査	の	対	象	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
Ш		審	査	の	着	眼	点	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
IV		審	査	の	主	な	実	施	内	容	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
V		審	査	の	実	施	場	所	及	び	目	程	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
VI		決	算	審	査	の	結	果	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
	1		業	務	の	状	況	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
	2		予	算	及	び	決	算	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
	3		経	営	成	績	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	9
	4		医	業	収	益	に	占	め	る	職	員	給	与	費	及	び	材	料	費	の	割	合	に	つ	い	て	11
	5		患	者	1	人	1	日	当	た	ŋ	の	医	業	損	益	等	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	11
	6		財	政	状	況	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	12
	7		資	産	状	況	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
	8		企	業	債	の	状	況	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	16
	9		関	係	市	負	担	金	に	つ	٧١	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	17
	10)	牛	Ŧ	ツ	シ	ユ	•	フ	口	_	に	つ	いく	て	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	18
VII		資	金	不	足	比	率	審	査	の	結	果	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	19
VIII		審	査	所	感	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	19
IX		む		す		び	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	20
	付		別	表		財	務	分	析	表	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	21

【注記】

- 1 文中及び表中で用いる数値は、原則として表示単位未満を四捨五入し、端数調整をしていないため、合計等と一致しない場合がある。
- 2 文中及び表中の増減額、増減率及び構成比率等は、原則として各 表内の計数により計算し、率で表示しているものについては、小数 点以下第2位を四捨五入している。
- 3 文中及び表中の「消費税等」とは、消費税及び地方消費税をいう。

令和5年度 北播磨総合医療センター企業団病院事業会計決算審査及び資金不足比率審査意見書

• I 審査の種類

北播磨総合医療センター企業団監査基準第4条第1項第11号に規定する決算審査及 び同項第13号に規定する資金不足比率審査。

なお、この審査は上記基準に準拠し、実施した。

・Ⅱ 審査の対象

令和5年度 北播磨総合医療センター企業団病院事業会計

・Ⅲ 審査の着眼点

上記会計の決算その他関係書類及び資金不足比率並びにその算定の基礎となる事項を記載した書類が、法令に適合し、かつ正確であるか。

・IV 審査の主な実施内容

審査に当たっては、地方公営企業法第30条の規定に基づく決算書類、及び同法施行令第23条の規定に基づく決算附属書類、並びに地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づく資金不足比率等報告書について、その計数を会計諸帳簿と照合し審査を行うとともに、信憑書類及び企業団諸帳簿を抽出調査したほか、決算状況、資金不足比率について企業団職員から説明を聴取して審査した。

・V 審査の実施場所及び日程

書面審査 実施場所:監査委員事務局

日 程:令和6年5月29日から6月6日まで

対面審査 実施場所:北播磨総合医療センター会議室

日 程:令和6年6月6日

・VI 決算審査の結果

上記、記載事項のとおり審査した限りにおいて、決算その他関係書類が法令 に適合し、かつ正確であることを認めた。

なお、審査の概要は次のとおりである。

1 業務の状況について

令和5年度の北播磨総合医療センター企業団病院事業の業務実績の状況は、第 1表のとおりである。

第1表 業務実績比較表

(1) 職員数 (単位:人)

		4	令和6年3	3月31日		4	令和5年	3月31日		増減			
	区分	常勤	会計年度	任用職員	⇒ 1.	常勤	会計年度	任用職員	⇒ 1.	常勤	会計年度	任用職員	⇒ 1.
		職員	フルタイム	パート	計	職員	フルタイム	パート	計	職員	フルタイム	パート	計
	医 師	106.0	2. 0	11. 2	119.2	108.0	3.0	11.8	122.8	Δ 2.0	Δ 1.0	Δ 0.6	Δ 3.6
	歯 科 医 師	2. 0	0.0	0. 1	2. 1	2. 0	0.0	0.0	2. 0	0.0	0.0	0.1	0. 1
医	専 攻 医	36.0	0.0	0.0	36.0	38.0	0.0	0.0	38.0	Δ 2.0	0.0	0.0	Δ 2.0
師職	専攻医(歯科)	2. 0	0.0	0.0	2. 0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0
7194	研修 医	25.0	0.0	0.0	25.0	25. 0	0.0	0.0	25. 0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	171.0	2. 0	11. 3	184.3	174.0	3.0	11.8	188.8	Δ 3.0	Δ 1.0	Δ 0.5	△ 4.5
	薬 剤 師	29.0	2. 0	0.0	31.0	28.0	2. 0	0.8	30.8	1.0	0.0	Δ 0.8	0. 2
	医学物理士	2. 0	0.0	0.0	2. 0	2. 0	0.0	0.0	2. 0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床検査技師	31.0	2. 0	2. 7	35.7	30.0	2. 0	4. 5	36.5	1.0	0.0	Δ 1.8	Δ 0.8
	放射線技師	29.0	2. 0	0.0	31.0	29.0	2. 0	1.0	32.0	0.0	0.0	Δ 1.0	Δ 1.0
医	リハビリ療法士	19.0	0.0	0.0	19.0	19.0	0.0	0.0	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0
療技	管 理 栄 養 士	6.0	2. 0	0.0	8.0	5.0	2. 0	0.0	7. 0	1.0	0.0	0.0	1.0
依	臨床工学技士	19.0	1.0	0.0	20.0	16.0	1.0	0.0	17. 0	3.0	0.0	0.0	3.0
職	視 能 訓 練 士	3.0	1.0	1.4	5.4	1.0	3.0	1.4	5.4	2. 0	Δ 2.0	0.0	0.0
	歯科衛生士	1.0	2. 0	0.0	3.0	0.0	4.0	0.0	4. 0	1.0	Δ 2.0	0.0	Δ 1.0
	社 会 福 祉 士	8.0	1.0	0.0	9.0	7. 0	1.0	0.0	8.0	1.0	0.0	0.0	1.0
	公 認 心 理 師	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0
	計	148.0	13.0	4. 1	165.1	137. 0	17. 0	7. 7	161.7	11.0	Δ 4.0	△ 3.6	3.4
	保 健 師	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0
	助 産 師	19.0	0.0	2. 2	21. 2	20. 0	0.0	3. 5	23. 5	Δ 1.0	0.0	Δ 1.3	Δ 2.3
看	看 護 師	435.0	0.0	47. 4	482.4	436.0	1.0	44. 9	481.9	Δ 1.0	Δ 1.0	2. 5	0.5
護	准 看 護 師	0.0	0.0	2. 5	2. 5	0.0	0.0	2. 5	2. 5	0.0	0.0	0.0	0.0
職	救急救命士	0.0	2. 0	0.0	2. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2. 0	0.0	2. 0
	介 護 福 祉 士	0.0	5.0	1.8	6.8	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0	5.0	0.9	5.9
	計	454.0	8.0	53. 9	515.9	456.0	1.0	51.8	508.8	Δ 2.0	7. 0	2. 1	7. 1
事	務職	38. 0	17. 0	0.0	55.0	38.0	15.0	0.0	53.0	0.0	2. 0	0.0	2. 0
看	護補助職	0.0	12.0	11.6	23.6	0.0	12.0	12.7	24. 7	0.0	0.0	Δ 1.1	Δ 1.1
事	務補助職	0.0	0.0	23. 0	23.0	0.0	0.0	24.0	24. 0	0.0	0.0	Δ 1.0	Δ 1.0
そ	の他補助職	0.0	0.0	6.6	6.6	0.0	0.0	4. 3	4. 3	0.0	0.0	2. 3	2. 3
	合 計	811.0	52.0	110.5	973.5	805.0	48. 0	112.3	965.3	6.0	4. 0	Δ 1.8	8. 2
51		2. 0			2. 0	4. 0			4. 0	Δ 2.0		_	Δ 2.0
51		1.0			1.0	0.0			0.0	1.0			1.0
51		10.0			10.0	12.0	_		12.0	Δ 2.0	_		Δ 2.0
内	三木市職員	6.0			6.0	7. 0			7. 0	Δ 1.0			Δ 1.0
訳	小野市職員	4. 0		-	4. 0	5.0	_		5.0	Δ 1.0	_	_	Δ 1.0

(注)1 パートは、常勤換算して計上している。

パートの常勤換算数=パートの1週間の平均勤務時間数:常勤職員の1週間勤務時間数

年度末における職員数は、常勤職員が811.0人、会計年度任用職員がフルタイム52.0人、パート110.5人の合計973.5人であった。対前年度比較では、合計8.2人の増加となっている。

内訳は、医師職では合計4.5人減少したが、医療技術職では合計3.4人増加し、 看護職では、本年度より配置された保健師1.0人と救急救命士2.0人を含めて 7.1人増加した。その他、事務職2.0人増加、看護補助職1.1人減少、事務補助職 1.0人減少、その他補助職2.3人増加となっている。

(2) 病床利用率等

F /	実	績	対前年	度比較
区分	R5	R4	増減	増減率(%)
期末許可病床数(床)	450	450	0	0. 0
期末使用許可病床数(床)	450	450	0	0. 0
期末稼働病床数(床)	385	335	50	14. 9
使用許可延病床数(床)A	164, 700	164, 250	450	0. 3
稼 働 延 病 床 数(床)B	124, 160	155, 675	△ 31,515	△ 20.2
延 入 院 患 者 数(人) C	108, 842	124, 204	△ 15,362	△ 12.4
新 入 院 患 者 数(人)D	11, 057	11, 424	△ 367	△ 3.2
退院患者数(人)E	11, 087	11, 493	△ 406	△ 3.5
延 外 来 患 者 数(人)	248, 089	253, 619	△ 5,530	△ 2.2
一日平均入院患者数(人) F	297. 4	340. 3	△ 42.9	△ 12.6
一日平均外来患者数(人) G	1, 020. 9	1, 043. 7	△ 22.8	△ 2.2
使用許可病床稼働率 (%) C/A×100	66. 1	75. 6	△ 9.5	
稼働病床稼働率 (%) C/B×100	87. 7	79.8	7. 9	
平 均 在 院 日 数 (日) C/[(D+E)/2]	9.8	10.8	Δ 1.0	△ 9.3
外来入院患者数比率 G/F	3.4	3.1	0.3	9.7

(注) 許可及び稼働の診療日数(令和5年度366日、令和4年度365日)

年度末の使用許可病床数は前年度と変わりないが、閉鎖していた一部病棟を再開したため、稼働病床数は50床増加した。しかし、稼働延病床数は31,515床減少したことにより、延入院患者数は15,362人減少し、対前年度比較で12.4%低下している。

平均在院日数については、前年度より1.0日減少し、9.8日となっている。

(3) 入院患者数

	φ Λ '	延患者数	(人)	対前年	度比較	1 日平均息	君数(人)
	区分	R5	R4	増減(人)	増減率(%)	R5	R4
1	総合内科、老年内科	3,614	3, 588	26	0.7	9. 9	9.8
2	糖尿病・内分泌内科	2, 933	3, 629	△ 696	△ 19.2	8. 0	9. 9
3	循 環 器 内 科	12, 464	14, 167	△ 1,703	Δ 12.0	34. 1	38.8
4	呼 吸 器 内 科	5, 203	5, 808	△ 605	Δ 10.4	14. 2	15.9
5	血 液・腫 瘍 内 科	4, 389	4, 783	△ 394	Δ 8.2	12. 0	13. 1
6	消化器内科	10, 992	13, 221	△ 2,229	Δ 16.9	30.0	36. 2
7	腎 臓 内 科	3, 933	4, 871	△ 938	△ 19.3	10. 7	13. 3
8	脳 神 経 内 科	6, 938	6, 756	182	2. 7	19.0	18. 5
9	リウマチ・膠原病内科	2, 925	3, 677	△ 752	△ 20.5	8. 0	10.1
10	放射線診断科	0	0		_	0.0	0.0
11	放射線治療科	0	0	_	_	0.0	0.0
12	小 児 科	4, 233	3, 426	807	23.6	11. 6	9.4
13	皮膚科	0	0			0.0	0.0
14	精神神経科	0	0		_	0.0	0.0
15	ペインクリニック内科	0	0	_	_	0.0	0.0
16	緩和ケア内科	1, 506	946	560	59. 2	4. 1	2. 6
17	リハビリテーション科	0	0		_	0.0	0.0
18	外科、消化器外科、乳腺外科	10, 005	12, 373	△ 2,368	△ 19.1	27. 3	33.9
19	心臟血管外科	5, 599	5, 805	△ 206	△ 3.5	15. 3	15.9
00000000000	呼 吸 器 外 科	1, 535	1, 768	△ 233	△ 13.2	4. 2	4.8
21	整 形 外 科	9, 378	13, 441	△ 4,063	△ 30.2	25. 6	36.8
22	脳 神 経 外 科	5, 189	5, 246	△ 57	Δ 1.1	14. 2	14. 4
23	眼科	1, 911	2, 117	△ 206	△ 9.7	5. 2	5.8
24	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2, 960	3, 596	△ 636	Δ 17.7	8. 1	9. 9
***************************************	泌 尿 器 科	6,037	7, 247	△ 1,210	△ 16.7	16. 5	19.9
26	産 婦 人 科	2, 169	2, 298	△ 129	△ 5.6	5. 9	6.3
27	形 成 外 科	2, 966	3, 249	△ 283	Δ 8.7	8. 1	8. 9
	麻 酔 科	0	0		_	0.0	0.0
000000000000	救 急 科	3	4	Δ 1	△ 25.0	0.0	0.0
30	歯科口腔外科	1, 960	2, 188	Δ 228		5. 4	6.0
	計	108, 842	124, 204	△ 15,362	Δ 12.4	297. 4	340. 2

(注) 1日平均患者数は、延入院患者数/診療日数(令和5年度366日、令和4年度365日)

令和5年度の延入院患者数は108,842人、1日平均患者数は297.4人となった。 診療科目別の延患者数の主なものは、循環器内科12,464人、消化器内科10,992 人、外科、消化器外科、乳腺外科10,005人などである。なお、入院患者が検査 や治療の一環で受診した場合は、延患者数に計上していない。

(4) 外来患者数

	E /\	延患者数	(人)	対前年	度比較	1日平均息	君数(人)
	区分	R5	R4	増減(人)	増減率(%)	R5	R4
1	総合内科、老年内科	6, 442	6, 317	125	2. 0	26.5	26.0
2	糖尿病・内分泌内科	11, 414	11, 554	△ 140	Δ 1.2	47. 0	47. 5
3	循 環 器 内 科	25, 693	25, 157	536	2. 1	105.7	103. 5
4	呼 吸 器 内 科	11, 088	10, 793	295	2. 7	45. 6	44. 4
5	血 液・腫 瘍 内 科	8, 507	7, 813	694	8.9	35.0	32. 2
6	消化器内科	27, 360	27, 982	△ 622	Δ 2.2	112.6	115. 2
7	腎 臓 内 科	6, 172	6, 231	△ 59	Δ 0.9	25. 4	25. 6
8	脳 神 経 内 科	12,075	11, 858	217	1.8	49. 7	48. 8
9	リウマチ・膠原病内科	11, 793	11, 076	717	6. 5	48. 5	45. 6
10	放射線診断科	1, 878	1, 821	57	3. 1	7. 7	7. 5
11	放射線治療科	5, 559	5, 722	△ 163	Δ 2.8	22. 9	23. 5
12	小 児 科	5, 802	5, 266	536	10. 2	23. 9	21. 7
13	皮 膚 科	4, 230	4, 647	△ 417	Δ 9.0	17. 4	19. 1
14	精神神経科	3, 388	3, 038	350	11. 5	13. 9	12. 5
15	ペインクリニック内科	1, 134	1, 049	85	8. 1	4. 7	4. 3
16	緩和ケア内科	357	219	138	63.0	1. 5	0.9
17	リハビリテーション科	718	465	253	54.4	3.0	1. 9
18	外科、消化器外科、乳腺外科	14, 664	14, 995	△ 331	Δ 2.2	60.3	61.7
19	心臟血管外科	4, 942	5, 219	△ 277	△ 5.3	20. 3	21.5
20	呼 吸 器 外 科	2, 086	2, 059	27	1. 3	8. 6	8. 5
21	整 形 外 科	10, 838	11, 741	△ 903	Δ 7.7	44. 6	48. 3
22	脳 神 経 外 科	6, 462	6, 241	221	3. 5	26.6	25. 7
23	眼科	18, 489	20, 606	△ 2,117	△ 10.3	76. 1	84. 8
24	耳鼻咽喉・頭頸部外科	7, 464	7, 113	351	4. 9	30. 7	29. 3
25	泌 尿 器 科	12, 997	13, 885	Δ 888	△ 6.4	53. 5	57. 1
26	産 婦 人 科	3, 472	3, 879	△ 407	△ 10.5	14. 3	16.0
27	形 成 外 科	7, 928	8, 177	△ 249	Δ 3.0	32.6	33. 7
00000000000	麻 酔 科	7	10	Δ 3	Δ 30.0	0.0	0.0
************	救 急 科	5, 933	9, 679	△ 3,746		24. 4	39.8
30	歯科口腔外科	9, 197	9, 007	190	2. 1	37.8	37. 1
	計	248, 089	253, 619	Δ 5,530	Δ 2.2	1,020.8	1, 043. 7

(注) 1日平均患者数は、延外来患者数/診療日数(令和5年度243日、令和4年度243日)

延外来患者数は248,089人、1日平均患者数は1,020.8人となった。診療科目別の延患者数の主なものは、消化器内科27,360人、循環器内科25,693人、眼科18,489人、外科、消化器外科、乳腺外科14,664人などである。

当初予算に定めた1日平均患者数は、入院295人、外来1,045人であった。これに対して決算では入院297.4人、外来1,020.8人となり、入院では0.8%上回っており、外来では2.3%下回っている。

(5) 手術件数

(単位:件、%)

	<u> </u>	/	Δ		WI,	手 術	件 数	:	左訂	己のうち生	全身麻酔作	‡数
	Ľ	7	分		R5	R4	増減	増減率	R5	R4	増減	増減率
1	外科、	消化器	外科、乳	腺外科	863	909	△ 46	Δ 5.1	787	824	△ 37	△ 4.5
2	心脈	美 血	管夕	ト科	355	295	60	20. 3	282	239	43	18. 0
3	呼	吸	器外	科	99	117	Δ 18	△ 15.4	99	116	Δ 17	Δ 14.7
4	整	形	外	科	771	933	△ 162	Δ 17.4	667	804	△ 137	Δ 17.0
5	脳	神	隆 外	科	288	288	0	0.0	211	204	7	3. 4
6	眼			科	637	617	20	3. 2	38	62	△ 24	Δ 38.7
7	耳鼻	因喉・	頭頸部	外科	403	305	98	32. 1	346	259	87	33. 6
8	泌	尿	器	科	951	962	Δ 11	Δ 1.1	240	234	6	2. 6
9	産	婦	人	科	97	121	△ 24	△ 19.8	29	42	Δ 13	Δ 31.0
10	形	成	外	科	456	487	△ 31	Δ 6.4	106	130	△ 24	Δ 18.5
11	救	1	急	科	0	0	_	_	0	0	—	_
12	歯	4 口	腔 夕	ト 科	179	188	Δ9	Δ 4.8	177	177	0	0.0
13	そ	(か	他	100	67	33	49. 3	50	26	24	92. 3
		計			5, 199	5, 289	Δ 90	Δ 1.7	3, 032	3, 117	△ 85	Δ 2.7

延手術件数は5,199件、そのうち全身麻酔による手術件数は3,032件となった。 主な診療科目別の手術件数は、泌尿器科951件、外科、消化器外科、乳腺外科 863件、整形外科771件、眼科637件、形成外科456件となっている。対前年度比較 では、耳鼻咽喉・頭頸部外科が32.1%、心臓血管外科が20.3%増加となっている。

第1表 業務実績比較表(つづき)

(6) 人間ドック利用者数

₩ /\	利用者数((人)	対前年度比較			
	R5	R4	増減(人)	増減率(%)		
1 日 ド ッ ク	1, 101	1, 062	39	3. 7		
2 日 ド ッ ク	225	228	Δ 3	Δ 1.3		
日帰り(すい臓)コース	19	27	Δ 8	△ 29.6		
宿泊 PET がん検診	32	33	Δ 1	Δ 3.0		
脳ドックコース	49	49	0	0.0		
計	1, 426	1, 399	27	1. 9		

人間ドックの稼働病床は5床であり、対前年度比較では、1日ドックが39人増加し、2日ドック、日帰り(すい臓)コースと宿泊PETがん検診が減少している。

2 予算及び決算について

令和5年度の予算及び決算の状況は、第2表のとおりである。

第2表 予算決算対照表

(1) 収益的収支(消費税等を含む。)

収入 (単位:円、%)

□ □	予算額		対予算額				
区 分	」、 异 (()	大 异 银	増減	執行率			
1 医 業 収 益	16, 875, 460, 000	16, 738, 501, 006	△ 136, 958, 994	99. 2			
2 医業外収益	1, 894, 087, 000	1, 886, 559, 371	△ 7,527,629	99. 6			
3 特 別 利 益	4, 002, 000	6, 170, 785	2, 168, 785	154. 2			
収益的収入計	18, 773, 549, 000	18, 631, 231, 162	△ 142, 317, 838	99. 2			

支 出 (単位:円、%)

区 分	予算額	決 算 額	翌年度 繰越額	不 用 額	執行率
1 医 業 費 用	18, 424, 770, 000	18, 220, 328, 288	5, 995, 000	198, 446, 712	98. 9
2 医業外費用	1, 138, 191, 000	1, 109, 157, 077	0	29, 033, 923	97. 4
3 特 別 損 失	120, 001, 000	108, 227, 862	0	11, 773, 138	90. 2
4 予 備 費	10, 000, 000	0	0	10, 000, 000	0.0
収益的支出計	19, 692, 962, 000	19, 437, 713, 227	5, 995, 000	249, 253, 773	98. 7

収益的収入は、予算額 18,773,549 千円に対して、決算額 18,631,231 千円(うち、仮受消費税等 41,825 千円)、執行率 99.2%となっている。これらの内訳としては、医業収益には入院収益、外来収益、関係市負担金など、医業外収益には関係市負担金、国県補助金、長期前受金戻入、派遣職員給与負担金、治験業務収益など、特別利益には過年度損益修正益が含まれる。

一方、収益的支出は予算額 19,692,962 千円に対し、決算額 19,437,713 千円 (うち、仮払消費税等 258,689 千円)、執行率 98.7%、地方公営企業法第 26 条第 2 項の規定による繰越額は 5,995 千円で、不用額は 249,254 千円となっている。これらの内訳としては、医業費用では給与費、材料費、経費、減価償却費など、医業外費用では控除対象外消費税、支払利息、給与費など、特別損失では研究奨励等基金や寄附金活用基金への積み立てが含まれる。なお、これらの基金への積み立てについては、本年度においては、過年度に収入した当該資金を基金へ積み立てるため、特別損失に計上しているが、令和 6 年度からは、単年度収入に相当する資金を医業外費用から支出するものである。

第2表 予算決算対照表(つづき)

(2) 資本的収支(消費税等を含む。)

収入 (単位:円、%)

	区 分						予算額	決 算 額	対予算額				
		<u> </u>		<u>ス</u>	<u> </u>		」、 异 、 稅	(大) 异)(银	増減	執行率			
1	企		j	É		債	552, 718, 000	449, 700, 000	△ 103, 018, 000	81.4			
2	関	係	市	借	入	金	1,000	0	△ 1,000	0.0			
3	関	係	市	負	担	金	15, 004, 000	15, 004, 266	266	100.0			
4	国	県	神	甫	助	金	1,000	0	△ 1,000	0.0			
5	寄		ß	付		金	1,000	0	△ 1,000	0.0			
6	投	資	ì	豆	還	金	2, 001, 000	2, 185, 000	184, 000	109. 2			
7	固	定資	産	売	却代	金	1,000	0	△ 1,000	0.0			
Ĭ	新	<u></u> 本	的	収	入	計	569, 727, 000	466, 889, 266	△ 102, 837, 734	81.9			

支 出 (単位:円、%)

区 分	予算額	決	翌年度 繰越額	不 用 額	執行率
1建設改良費	585, 718, 000	560, 094, 945	0	25, 623, 055	95. 6
2 企業債償還金	960, 766, 000	960, 765, 380	0	620	100.0
3 関係市借入金償還金	1, 000	0	0	1, 000	0.0
4 投 資	5, 690, 000	4, 216, 000	0	1, 474, 000	74. 1
資本的支出計	1, 552, 175, 000	1, 525, 076, 325	0	27, 098, 675	98. 3

資本的収入は、予算額 569,727 千円に対して、決算額 466,889 千円、執行率 81.9%、予算額に比べて 102,838 千円の減となっている。内訳は、企業債が 449,700 千円と収入の 96.3%を占めている。

一方、資本的支出は予算額 1,552,175 千円に対し、決算額 1,525,076 千円(うち、仮払消費税等 50,918 千円)、執行率 98.3%となっている。支出の内訳は、建設改良費については、医療機器等整備費 462,037 千円、情報システム整備費 68,446 千円、病院整備費 29,612 千円、企業債償還金については、病院事業債償還金 960,765 千円、投資については、長期貸付金 3,690 千円とその他投資となっている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 1,058,187 千円は、損益勘 定留保資金等で補てんされている。

3 経営成績について 令和5年度の病院事業の経営成績は、第3表のとおりである。

第3表 比較損益計算書

(単位:円、%)

		R5		R4		対前年度比	畝
	区 分	决算額	構成比	 決算額	構成比	<u> </u>	増減率
医	業 収 益(a)	16, 706, 777, 193	89. 9	16, 311, 227, 195	86. 9	395, 549, 998	2.4
		10, 827, 120, 909	58.3	10, 826, 534, 222	57.7	586, 687	0.0
	外来収益	5, 227, 508, 575	28. 1	4, 849, 631, 162	25. 8	377, 877, 413	7. 8
	関係市負担金	332, 494, 412	1.8	301, 755, 412	1.6	30, 739, 000	10. 2
-	その他医業収益	319, 653, 297	1.7	333, 306, 399	1.8	△ 13, 653, 102	△ 4.1
医	業費用(b)	17, 965, 348, 294	93.7	17, 255, 082, 807	94.4	710, 265, 487	4. 1
	給 与 費	8, 354, 297, 581	43.6	8, 318, 042, 285	45.5	36, 255, 296	0.4
-	材 料 費	5, 793, 288, 616	30. 2	5, 183, 822, 347	28.3	609, 466, 269	11.8
-	経費	2, 491, 525, 334	13.0	2, 391, 373, 026	13.1	100, 152, 308	4. 2
	減価償却費	1, 271, 648, 463	6.6	1, 285, 661, 796	7.0	△ 14, 013, 333	Δ 1.1
	資産減耗費	11, 831, 891	0. 1	10, 139, 810	0.1	1, 692, 081	16.7
	研究研修費	42, 756, 409	0. 2	66, 043, 543	0.4	△ 23, 287, 134	△ 35.3
医	業 損 益	△ 1, 258, 571, 101		△ 943, 855, 612		△ 314, 715, 489	33. 3
医	業 外 収 益	1, 876, 460, 048	10.1	2, 460, 497, 534	13. 1	△ 584, 037, 486	Δ 23.7
	受 取 利 息	1, 181, 368	0.0	286, 596	0.0	894, 772	312. 2
	関係市負担金	1, 252, 501, 322	6. 7	1, 283, 453, 676	6.8	△ 30, 952, 354	Δ 2.4
	国 県 補 助 金	213, 923, 640	1. 2	739, 050, 594	3.9	△ 525, 126, 954	Δ 71.1
	長期前受金戻入	197, 026, 473	1.1	197, 965, 273	1.1	△ 938,800	△ 0.5
	派遣職員給与負担金	79, 262, 072	0.4	86, 966, 840	0.5	△ 7,704,768	△ 8.9
	治験業務収益	70, 182, 845	0.4	70, 612, 528	0.4	△ 429,683	Δ 0.6
	その他医業外収益	62, 382, 328	0.3	82, 162, 027	0.4	△ 19,779,699	△ 24.1
医	業外費用	1, 084, 467, 943	5.7	1, 017, 196, 599	5.5	67, 271, 344	6.6
	支 払 利 息	106, 871, 337	0.6	111, 156, 363	0.6	△ 4, 285, 026	△ 3.9
	患者外給食材料費	1, 244, 603	0.0	1, 223, 236	0.0	21, 367	1.7
	人材確保経費	56, 878, 658	0.3	54, 482, 776	0.3	2, 395, 882	4. 4
	給 与 費	81, 352, 079	0.4	88, 997, 462	0.5	△ 7, 645, 383	Δ 8.6
	治験研究研修費	29, 181, 586	0. 2	20, 601, 566	0.1	8, 580, 020	41.6
	控除対象外消費税等	808, 142, 630	4. 2	739, 942, 185	4.0	68, 200, 445	9. 2
	雑 損 失	797, 050	0.0	793, 011	0.0	4, 039	0. 5
医	業外損益	791, 992, 105		1, 443, 300, 935		△ 651, 308, 830	△ 4 5.1
経	常損益	△ 466, 578, 996		499, 445, 323		△ 966, 024, 319	_
特	別 利 益	6, 168, 677	0.0	118, 796	0.0	6, 049, 881	5, 092. 7
	固定資産売却益	0	0.0	0	0.0	0	_
	過年度損益修正益	6, 168, 677	0.0	118, 796	0.0	6, 049, 881	5,092.7
	その他特別利益	0	0.0	0	0.0	0	-
特	別 損 失	107, 773, 715	0.6	16, 763, 211	0.1	91, 010, 504	542.9
	固定資産売却損	0	0.0	0	0.0	0	
	過年度損益修正損	17, 463, 805	0.1	16, 763, 211	0.1	700, 594	4. 2
	その他特別損失	90, 309, 910	0.5	0	0.0	90, 309, 910	皆増
当	年度純損益	△ 568, 184, 034		482, 800, 908	/	△ 1,050,984,942	_
前利	年 度 繰 越 益 剰 余 金	1, 284, 478, 586		801, 677, 678		482, 800, 908	60. 2
当利	年 度 未 処 分 益 剰 余 金 (c)	716, 294, 552		1, 284, 478, 586		△ 568, 184, 034	Δ 44.2
総	収 益 (A)	18, 589, 405, 918		18, 771, 843, 525	}	△ 182, 437, 607	Δ 1.0
総	費 用 (B)	19, 157, 589, 952	100.0	18, 289, 042, 617	100.0	868, 547, 335	4. 7
総	収支比率A/B	97.0		102. 6		Δ 5.6	
経		97. 6		102. 7		Δ 5.1	
	業収支比率a/b	93. 0		94. 5	//,	Δ 1.5	
累	積 欠 損 比 率 c/a	0.0		0.0		0.0	

(注) 令和5年度の勘定科目設定変更に伴い、比較する令和4年度の内訳数値を変更している。

(1) 医業損益

本年度は医業収益16,706,777千円、医業費用17,965,348千円となり、医業損失が1,258,571千円となっている。対前年度比較において、医業損失が314,715千円(33.3%)増加しているのは、材料費の増などにより医業費用が増加しているためである。

(2) 医業外損益

本年度は医業外収益1,876,460千円、医業外費用1,084,468千円となり、医業外利益は791,992千円となっている。対前年度比較において、651,309千円(45.1%)減少しているのは、収益において、国県補助金が前年度よりも71.1%減少し、費用において、控除対象外消費税等が9.2%増加しているためである。

(3) 純損益等

これらの結果、経常損益は前年度から966,024千円減少し、466,579千円の損失となっている。これに特別利益6,169千円、特別損失107,774千円を加減した当年度純損益は568,184千円の損失となった。特別損失のうち、その他特別損失が90,310千円皆増しているが、これは、研究奨励等基金および寄附金活用基金への積み立てによるものである。

また、当年度純損益に前年度繰越利益剰余金1,284,479千円を加えた当年度 未処分利益剰余金は、716,295千円となっている。

なお、累積欠損金が発生していないため、累積欠損比率は前年度同様 0 % である。

4 医業収益に占める職員給与費及び材料費の割合について 令和5年度の医業収益に占める職員給与費及び材料費の割合は、第4表のとお りである。

第4表 医業収益に占める職員給与費及び材料費の割合(単位:千円、%)

区分	R5	R4	増 減 R5-R4
医業収益A	16, 706, 777	16, 311, 227	395, 550
職員給与費B	8, 021, 521	7, 988, 694	32, 827
材料費C	5, 793, 289	5, 183, 822	609, 467
比率 (B/A)	48. 0	49. 0	Δ 1.0
比率(C/A)	34. 7	31.8	2. 9

本年度の医業収益に占める職員給与費の割合は、48.0%となっており、前年度末の49.0%から、1.0ポイント減少している。また、医業収益に占める材料費の割合は、34.7%となっており、前年度末の31.8%から、2.9ポイント増加している。

なお、令和4年度の職員給与費については、前年度決算書では8,315,625千円と記載しているが、本年度の決算書では第4表のとおりであり、326,931千円減額している。これは、前年度までスポット職員の報酬を職員給与費に計上していたが、本年度から、同じ給与費の区分内ではあるが、職員給与費の対象外としたためであり、比較対象である令和4年度においても、同様に職員給与費から除外した結果である。

(単位:円、%)

5 患者1人1日当たりの医業損益等について 患者1人1日当たりの医業損益等は、第5表のとおりである。

第5表 患者1人1日当たりの医業損益等

区 分		決 算	額	増減	増減率
	Ŋ	R5 (A)	R4 (B)	A-B (C)	C/B
医 業	収 益	46, 807	43, 172	3, 635	8.4
医 業	費用	50, 333	45, 670	4, 663	10. 2
医業	損益	△ 3,526	△ 2,498	△ 1,028	Δ 41.2
入院	収 益	99, 476	87, 167	12, 309	14. 1
外 来	収 益	21, 071	19, 122	1, 949	10. 2

令和5年度の患者1人1日当たりの医業収益は46,807円、同費用は50,333円で、 医業損益は3,526円の損失となっている。また、入院収益は99,476円、外来収益 は21,071円となっている。

6 財政状況について

病院事業の財政状況は、第6表のとおりである。

第6表 比較貸借対照表

(1) 資産の部

				1			
区分	R5		R4		対前年度比較		
. , , ,	決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率	
固定資産	15, 123, 613, 458	76.0	15, 484, 284, 842	75. 4	△ 360, 671, 384	Δ 2.3	
有形固定資産	11, 192, 538, 085	56.3	11, 717, 554, 304	57. 0	△ 525, 016, 219	△ 4.5	
土 地	1, 264, 507, 137	6.4	1, 264, 507, 137	6. 1	0	0.0	
建物	7, 251, 313, 565	36.4	7, 679, 385, 360	37. 4	△ 428, 071, 795	△ 5.6	
構 築 物	549, 161, 434	2. 8	622, 318, 201	3. 0	△ 73, 156, 767	Δ 11.8	
器械備品	2, 112, 777, 201	10.6	2, 134, 663, 558	10.4	△ 21,886,357	Δ 1.0	
車両	924, 628	0.0	924, 628	0. 0	0	0. 0	
リース資産	13, 854, 120	0. 1	15, 755, 420	0. 1	△ 1,901,300	Δ 12.1	
建設仮勘定	0	0.0	0	0.0	0	_	
無形固定資産	747, 672, 849	3. 7	893, 180, 048	4. 4	△ 145, 507, 199	△ 16.3	
施設利用権	63, 820, 644	0. 3	73, 552, 042	0. 4	△ 9, 731, 398	△ 13.2	
ソフトウェア	683, 852, 205	3.4	819, 628, 006	4. 0	△ 135, 775, 801	△ 16.6	
投資その他の資産	3, 183, 402, 524	16.0	2, 873, 550, 490	14.0	309, 852, 034	10.8	
長期貸付金	29, 490, 000	0. 1	32, 210, 000	0. 2	△ 2,720,000	△ 8.4	
基金	2, 442, 712, 357	12. 3	0	0.0	2, 442, 712, 357	皆増	
引当金運用資金	0	0.0	2, 083, 978, 449	10. 1	△ 2, 083, 978, 449	皆減	
長期前払消費税	710, 318, 827	3.6	756, 741, 701	3. 7	△ 46, 422, 874	△ 6.1	
その他投資	881, 340	0.0	620, 340	0.0	261, 000	42. 1	
流動資産	4, 780, 805, 116	24. 0	5, 050, 294, 354	24. 6	△ 269, 489, 238	△ 5.3	
現 金 預 金	1, 914, 835, 016	9. 6	2, 185, 393, 980	10. 6	△ 270, 558, 964	Δ 12.4	
未 収 金	2, 751, 627, 935	13.8	2, 743, 666, 068	13. 4	7, 961, 867	0. 3	
貯 蔵 品	108, 814, 915	0.6	117, 716, 096	0. 6	△ 8, 901, 181	Δ 7.6	
前払費用	3, 384, 250	0.0	3, 301, 210	0.0	83, 040	2. 5	
前 払 金	2, 143, 000	0.0	217, 000	0.0	1, 926, 000	887. 6	
その他流動資産	0	0.0	0	0.0	0	_	
繰 延 資 産	0	0.0	0	0.0	0	_	
資 産 合 計	19, 904, 418, 574	100.0	20, 534, 579, 196	100.0	Δ 630, 160, 622	Δ 3.1	

(単位:円、%)

資産の合計は19,904,419千円で、前年度末に比べて630,161千円(3.1%)減少している。これは、固定資産が360,671千円(2.3%)減少、流動資産が269,489千円(5.3%)減少したためである。

ア 固定資産

各有形固定資産の決算額は、減価償却をした後のものである。有形固定資産は、主に減価償却により525,016千円(4.5%)減少し、11,192,538千円となっている。

無形固定資産は、施設利用権とソフトウェアで、主に減価償却により 145,507千円(16.3%)減少し、747,673千円となっている。

投資その他の資産は、引当金運用資金が皆減となったものの、基金の皆増により、309,852千円(10.8%)増加し、3,183,403千円となっている。

なお、長期貸付金の決算額は、奨学金返還免除引当金14,050千円を差引いた後のものである。奨学金返還免除引当金の算出は、返還免除勤務期間に対する実勤務期間に対応する額を計上している。

この結果、固定資産全体の決算額は、15,123,613千円となっている。

イ 流動資産

流動資産は対前年度比較で、269,489千円(5.3%)減少し、4,780,805千円となっている。要因は、現金預金と貯蔵品の減少である。

なお、未収金の決算額は、貸倒引当金8,041千円を差引いた後のものであり、 貸倒引当金は、実績率等から回収不能見込額を算出し、計上している。

第6表 比較貸借対照表(つづき)

(2) 負債の部

(単位:円、%)

区分		R5		R4		対前年度比較	
	f	決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率
固 定 負	債	11, 789, 075, 78	5 59.3	11, 991, 413, 466	58. 4	△ 202, 337, 681	Δ 1.7
企業	債	9, 346, 363, 42	8 47.0	9, 907, 435, 017	48. 3	△ 561,071,589	△ 5.7
建設改良	等企業債	9, 254, 696, 77	6 46.5	9, 807, 435, 017	47. 8	△ 552, 738, 241	△ 5.6
その他	企業債	91, 666, 65	2 0.5	100, 000, 000	0. 5	△ 8, 333, 348	△ 8.3
引 当	金	2, 352, 402, 44	7 11.8	2, 083, 978, 449	10. 1	268, 423, 998	12. 9
退職給付	引 当 金	2, 144, 226, 81	0 10.8	1, 954, 946, 812	9. 5	189, 279, 998	9. 7
修繕弓	当金	72, 200, 00		0	0.0	72, 200, 000	皆増
退職給付引当金修 繕 引 当 金 特別修繕引当金 特別修繕引当金 を		94, 388, 47	0 0.5	89, 988, 470	0. 4	4, 400, 000	4. 9
医療機器等位	呆守引当金	41, 587, 16	7 0.2	39, 043, 167	0. 2	2, 544, 000	6. 5
その他固	定負債	90, 309, 91	0.5	0	0.0	90, 309, 910	皆増
流動質	債	4, 103, 191, 23	4 20.5	3, 779, 926, 683	18. 5	323, 264, 551	8.6
7 17			0.0	0	0.0	0	
企業	債	1, 010, 771, 58	9 5.0	960, 765, 380	4. 7	50, 006, 209	5. 2
建設改良	等企業債	1, 002, 438, 24	1 5.0	960, 765, 380	4. 7	41, 672, 861	4. 3
その他	企業債	8, 333, 34	8 0.0	0	0.0	8, 333, 348	皆増
}	金	2, 512, 927, 38	3 12.6	2, 212, 776, 035	10.8	300, 151, 348	13.6
前 受	金		0.0	0	0.0	0	_
***	金	69, 093, 26	2 0.3	141, 385, 268	0. 7	△ 72, 292, 006	△ 51.1
引 当	金	510, 399, 00	0 2.6	465, 000, 000	2. 3	45, 399, 000	9.8
賞与等		510, 399, 00		465, 000, 000	2. 3	45, 399, 000	9.8
その他流	動負債		0.0	0	0.0	0	_
繰 延 収		2, 347, 479, 06		2, 545, 386, 787	12. 3	△ 197, 907, 724	△ 7.8
長期前	受 金	7, 447, 214, 94		7, 464, 839, 976	36. 3	△ 17, 625, 033	Δ 0.2
	負 担 金	5, 667, 971, 08	~~	5, 675, 647, 593	27. 6	△ 7, 676, 511	Δ 0.1
国県補		1, 765, 448, 86		1, 775, 397, 383	8. 6	△ 9, 948, 522	Δ 0.6
受贈財産		13, 795, 00	~~	13, 795, 000	0. 1	0	0.0
収益化		△ 5, 099, 735, 88				△ 180, 282, 691	3. 7
関係市		△ 4, 065, 123, 70				△ 134, 445, 998	3. 4
国県補		△ 1,021,819,01		△ 976, 843, 642	}	△ 44, 975, 375	4. 6
受贈財産		△ 12, 793, 15				△ 861,318	7. 2
負 債	計	18, 239, 746, 08	2 91.6	18, 316, 726, 936	89. 2	△ 76, 980, 854	Δ 0.4

(注) 各項目の構成比は次ページの「負債・資本合計」を分母としている。

負債の合計は18,239,746千円で、前年度末に比べ76,981千円(0.4%)減少している。これは、流動負債が323,265千円(8.6%)増加したものの、固定負債が202,338千円(1.7%)、繰延収益が197,908千円(7.8%)、それぞれ減少したことによるものである。

ア 固定負債

企業債が561,072千円(5.7%)減少したものの、引当金が268,424千円(12.9%)増加、その他固定負債が90,310千円皆増したため、固定負債の決算

額は11,789,076千円となっている。

なお、引当金については職員の退職手当の支給に備える退職給付引当金、 病院設備の大規模修繕に備える修繕引当金、医療機器の高額修繕に備える特 別修繕引当金、医療機器等の保守料を耐用年数内で平準化するための医療機 器等保守引当金を計上している。

イ 流動負債

預り金が72,292千円(51.1%)減少したが、未払金が300,151千円(13.6%)、企業債が50,006千円(5.2%)、引当金が45,399千円(9.8%)、それぞれ増加し、流動負債の決算額は、4,103,191千円となっている。

ウ 繰延収益

長期前受金が17,625千円(0.2%)減少、収益化累計額が180,283千円(3.7%)減少したため、繰延収益の決算額は2,347,479千円となっている。

(単位:円、%)

第6表 比較貸借対照表(つづき)

(3) 資本の部

	Б V	R5		R4		対前年度比較	ŧ
	区 分	決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率
資	本 金	428, 387, 455	2. 2	428, 387, 455	2. 1	0	0.0
剰	余 金	1, 236, 285, 037	6. 2	1, 789, 464, 805	8. 7	△ 553, 179, 768	△ 30.9
	資 本 剰 余 金	519, 990, 485	2. 6	504, 986, 219	2. 4	15, 004, 266	3. 0
	関係市負担金	519, 990, 485	2. 6	504, 986, 219	2. 4	15, 004, 266	3.0
	国 県 補 助 金	0	0.0	0	0.0	0	_
	受贈財産評価額	0	0.0	0	0.0	0	_
	利益剰余金	716, 294, 552	3. 6	1, 284, 478, 586	6. 3	△ 568, 184, 034	△ 44.2
	当年度未処分利益剰余金	716, 294, 552	3. 6	1, 284, 478, 586	6. 3	△ 568, 184, 034	△ 44.2
000000000000000000000000000000000000000	前 年 度 繰 越利 益 剰 余 金	1, 284, 478, 586	6. 5	801, 677, 678	3. 9	482, 800, 908	60. 2
	当年度純損益	△ 568, 184, 034	Δ 2.9	482, 800, 908	2. 4	△ 1,050,984,942	△ 217.7
	資 本 計	1, 664, 672, 492	8. 4	2, 217, 852, 260	10.8	△ 553, 179, 768	Δ 24.9
1	負債・資本 合 計	19, 904, 418, 574	100.0	20, 534, 579, 196	100.0	△ 630, 160, 622	Δ 3.1

資本総額は1,664,672千円で、前年度に比べ553,180千円(24.9%)減少している。

ア 資本金

資本金については増減なしであった。

イ 剰余金

資本剰余金の関係市負担金は、土地取得にかかる長期借入金の償還金であり、15,004千円(3.0%)増加している。利益剰余金では、前年度繰越利益剰余金から当年度純損失568,184千円を差し引き、716,295千円となっている。この結果、剰余金の決算額は、1,236,285千円となっている。

7 資産状況について

病院事業の資産の状況は、第7表のとおりである。

第7表 資産の状況

(1) 有形固定資産減価償却率

(単位:千円、%)

区分	R5	R4	増 減 R5-R4
有 形 固 定 資 産 の う ち A 償却対象資産の帳簿原価 A	22, 187, 404	21, 801, 086	386, 318
有形固定資産減価償却 累 計 額 B	12, 259, 373	11, 348, 039	911, 334
比 率 (B/A)	55. 3	52. 1	3. 2

本年度の有形固定資産減価償却率は、55.3%となっており、前年度末の52.1%から、3.2ポイント増加している。

当該指標は、一般的に数値が100%に近いほど、保有資産の使用年数が法定 耐用年数に近づいているものである。

第7表 資産の状況(つづき)

(2) 器械備品減価償却率

(単位:千円、%)

区分	R5	R4	増 減 R5-R4
償 却 対 象 資 産 の う ち A 器 械 備 品 の 帳 簿 原 価 A	8, 637, 555		408, 496
器械備品減価償却累計額 B	6, 524, 778	6, 094, 396	430, 382
比 率 (B/A)	75. 5	74. 1	1.4

本年度の器械備品減価償却率は、75.5%となっており、前年度末の74.1% から1.4ポイント増加している。

当該指標は、保有資産のうち、器械備品がどのくらい法定耐用年数に近づいているかを把握・分析するためのものである。

第7表 資産の状況(つづき)

(3) 1床当たり有形固定資産

区分	R5	R4	増 減 R5-R4			
年 度 末 病 床 数 A	450	450	0			
有形固定資産のうち償却 対 象 資 産 の 帳 簿 原 価 B	22, 187, 404	21, 801, 086	386, 318			
1 床当たり有形固定資産 (B/A)	49, 305	48, 447	858			

本年度の1床当たり有形固定資産は、49,305千円となっており、前年度末の48,447千円から、858千円増加している。

当該指標は、1床当たりの有形固定資産の保有状況を示しており、投資計 画策定の検討に用いるものである。

8 企業債の状況について

病院事業の企業債の状況は、第8表のとおりである。

第8表 企業債の状況

(単位:円)

(単位:千円)

借入先	R4年度末残高	R5年度借入額	R5年度償還額	R5年度末残高
財 政 融 資 資 金	8, 073, 356, 397	0	346, 195, 380	7, 727, 161, 017
地方公共団体金融機構	100, 000, 000	0	0	100, 000, 000
みなと銀行	1, 662, 520, 000	0	360, 474, 000	1, 302, 046, 000
但 馬 銀 行	665, 206, 000	0	136, 130, 000	529, 076, 000
播州信用金庫	89, 250, 000	0	54, 750, 000	34, 500, 000
兵 庫 県 信 用 組 合	277, 868, 000	0	63, 216, 000	214, 652, 000
みのり農業協同組合	0	449, 700, 000	0	449, 700, 000
計	10, 868, 200, 397	449, 700, 000	960, 765, 380	10, 357, 135, 017

病院事業の企業債残高は、449,700千円の借入があったものの、960,765千円を 償還し、固定負債、流動負債を含めて、合計10,357,135千円となっている。

9 関係市負担金について

北播磨総合医療センター病院事業に対する三木・小野両市からの負担金は、第 9表のとおりである。

第9表 関係市負担金の状況

(単位:円)

	区 分	R5	R4		
巾	7益的収入	1, 584, 995, 734	1, 585, 209, 088		
	医業収益	332, 494, 412	301, 755, 412		
	災害拠点病院整備経費	45, 098, 412	45, 098, 412		
	救急医療の確保経費	287, 396, 000	256, 657, 000		
	医業外収益	1, 252, 501, 322	1, 283, 453, 676		
	病院の建設改良経費	496, 164, 956	510, 249, 488		
	周産期医療経費	124, 396, 000	111, 643, 000		
	小児医療経費	210, 525, 000	212, 137, 000		
	高度医療経費(ICU・HCU入院)	0	0		
	院内保育所の運営に要する経費	23, 691, 000	(
	医師及び看護師の研究研修に要する経費	0	0		
	共済追加費用の負担経費	50, 885, 000	54, 714, 000		
	医師の勤務環境の改善に要する経費	119, 131, 366	0		
	医師の派遣を受けることに要する経費	162, 288, 000	112, 527, 188		
	基礎年金拠出金に係る公的負担経費	0	216, 831, 000		
	児童手当経費	25, 320, 000	25, 252, 000		
	特別減収対策企業債の利子負担経費	100, 000	100, 000		
	関西国際大学支援分	40, 000, 000	40, 000, 000		
資	于本的収入	15, 004, 266	14, 790, 912		
	病院の建設改良経費(土地償還金)	15, 004, 266	14, 790, 912		
	合 計	1, 600, 000, 000	1, 600, 000, 000		
再	三木市負担金	938, 939, 687	938, 939, 688		
掲	小野市負担金	661, 060, 313	661, 060, 312		

令和5年度の関係市負担金は1,600,000千円で、前年度と同額である。

主なものは、医業外収益の建設改良経費496,165千円、救急医療の確保経費287,396千円、小児医療経費210,525千円となっている。

なお、平成26年度から特別利益に計上されていた関西国際大学支援分については、令和5年度から医業外収益に区分されるため、比較対象である令和4年度においても同様に医業外収益に区分変更している。

10 キャッシュ・フローについて

病院事業のキャッシュ・フロー計算書は、第10表のとおりである。

第10表 キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

接信情知費		(中心		0次 イヤソンユ・ノロー 川昇音	17 -
接信養却養	決算額	R4 }	R5 決算額		
接船債制要	82, 800, 908	48	△ 568 184 034	当年度維措益	
展期的全長人					
議職給付引当金の増減額 560,000 △3 (26,000) △3 (26,000) ○4 (27,000) (45,000) (45,000) (45,000) (46,000)		~~~~~~	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		
要学金返還免疫門当金の増減額 賃券明当金の増減額 45,399,000 2.3,7 資券明当金の増減額 A5,399,000 2.3,7 接脚引当金の増減額 72,200,000 かり修育引き金の増減額 機制引金の増減額 72,200,000 A10,4 機制引金の増減額 90,309,910 受收利息 大の他間近角の増減額 90,309,910 受收利息 支払利息 106,871,337 111,1 固定養産院却損益 0 106,871,337 111,1 固定養産院知損益 0 4,511,523 4,2 未収金の増減額 8,901,181 57,8 4,2 未収金の増減額 8,901,181 57,8 7,8 財産産産院特別費 4,511,523 4,2 4,2 未収金の増減額 8,901,181 57,8 7,8 財産用等の増減額 6,132,584 5,4 7,8 小計 1,086,099,619 2,083,8 1,181,368 1,08 利息の支取額 1,181,368 6,330,000 2,08,8 1,913,2 利息の支取額 1,281,368 6,330,000 4,28,26 6,330,000 2,09,8 利息の支取額 1,281,368 7,29,000	47, 848, 645				
(費等引当金の増減額	△ 910,000	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		
### ### ### ### ### ### ### ### ### #	23, 740, 000				
接続引当金の増減額	458, 000				
特別修繕引当金の増減額 2,544,000 6,8	700, 000				業
医療機器等保守引当金の増減額	10 400 000	Λ 1			
表の機関定負債の増減額 90,309,910 支取利息 △ 1,181,368 △ 2 支払利息 106,871,377 111,1 固定資産院却損益 0 0 固定資産院却費 4,511,523 4,2 未収金の増減額 △ 8,145,867 63,6 前払費用等の増減額 △ 2,009,040 4 未込金の増減額 △ 60,162,584 5,4 小計 1,086,099,619 1,086,099,619 利息の支收額 1,181,386 2,083,8 利息の支払額 △ 106,871,337 △ 111,1 業務活動によるキャッシュ・フロー △ 80,000,000 △ 2,01,106,002 固定資産の売却による収入 △ 3,690,000 △ 4,8 長期貸付金の設置による収入 ④ 3,500,000,000 △ 4,8 月当金運用資金の扱及による収入 ④ 3,500,000,000 △ 3,905,6 引当金運用資金の扱及による収入 ④ 5,505,553,869 1,900,0 基金の投資(飲金等)の回収による収入 ④ 24,442,712,357 ○ 基金の損人による収入 ④ 24,442,712,357 ○ 基金の損人による収入 ④ 2,292,6 ○ 財産・企業(飲金等)の回収による収入 ④ 7,22 ○ 投資(飲金等)の回収による収入 ④ 7,22 ○	6, 915, 000				
受取利息 ム 1, 181, 368 ム 2 支払利息 106, 871, 337 111, 1 固定資産売却損益 0 10 固定資産除却費 4, 511, 523 4, 2 未収金の増減額 ム 8, 145, 867 63, 6 井藤品の増減額 ム 2, 0009, 040 4 未払金の増減額 ム 2, 0009, 040 4 未払金の増減額 6, 132, 584 15, 8 利息の受取額 1, 181, 368 2 製態企業所の労働による収入 4 380, 409, 650 1, 913, 111, 11 支援費金の売却による収入 4 380, 409, 650 1, 913, 12 支援財費付金の設備付による支収入 4 3, 500, 000 4 <t< th=""><th>0, 913, 000</th><th></th><th></th><th></th><th>務</th></t<>	0, 913, 000				務
支払利息	△ 286, 596				
語 固定資産売却損益					
関定資産除却費 4,511,523 4,2 未収金の増減額					
未収金の増減額	4 202 462				沽
野藤品の増減額	4, 283, 462				
前払費用等の増減額	63, 614, 704	~~~~~~	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		
未払金の増減額 60,162,405 103.1 未払費用等の増減額 6,132,584 5,4 小計 1,086,099,619 2,083.8 利息の受取額 1,181,388 2 利息の支払額 △ 106,871,337 △ 111,1 業務活動によるキャッシュ・フロー A 980,409,650 1,973.0 固定資産の取得による支出 △ 320,106,002 △ 297.7 固定資産の売却による収入 0 -297.7 長期貸付金の貸付による支出 △ 3,690,000 △ 4,8 長期貸付金の貸付による支出 △ 3,500,000,000 △ 3,905.5 引当金運用資金の預入による支出 △ 3,500,000,000 △ 3,905.5 引当金運用資金の投戻による収入 5,505,553,859 1,900.0 基金の投戻による収入 0 -2,442,712,357 基金の投戻による収入 0 -2,442,712,357 基金の投資による収入 0 -2,442,712,357 基金の投資(敷金等)の支払による支払 0 -243,000 関係市からの繰入による収入 0 -243,000 関係市からの繰入による収入 0 -5,5 大資新による支収入 0 -5,5 大資新による支収入 0 -243,000 機械市からの繰入による支収入 0 -2	57, 876, 603	5			動
未払費用等の増減額	472,000	4.0			
小計 1,086,099,619 2,083,8 利息の受取額 1,181,368 2 利息の支払額 △ 106,871,337 △ 111,1 業務活動によるキャッシュ・フロー A 980,409,650 1,973,0 固定資産の取得による支出 △ 320,106,002 △ 297,7 固定資産の売却による収入 - 6,330,000 △ 4.8 長期貸付金の資付による支出 △ 3,500,000,000 △ 3,905,5 引当金運用資金の預入による支出 △ 3,500,000,000 △ 3,905,5 引当金運用資金の預入による支出 △ 3,500,000,000 △ 3,905,5 引当金運用資金の括戻による収入 5,505,553,859 1,900,0 基金の預入による支出 △ 2,442,712,357 基金の預入による支出 △ 2,442,712,357 本名の他投資(敷金等)の支払戻による収入 ○ 4,256,000 △ 2,442,712,357 本の他投資(敷金等)の支払による支出 ○ 4,256,000 △ 2,422,80 関係市からの繰入による収入 ○ 4,000,000 △ 5,5 投資活動によるキャッシュ・フロー B △ 754,907,500 △ 2,292,8 一時借入金の返済による収入 ○ 4,000,000 △ 10,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 △ 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 ○ 0 ○ 4,000,000 ○ 4,000 を設改し費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 ○ 0 ○ 4,000,000 ○ 4,000 企業債と	03, 166, 034				
利息の受取額	5, 451, 808				
利息の支払額		2, 08			
#終活動によるキャッシュ・フロー A 980,409,650 1,973,00	286, 596		~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		
固定資産の取得による支出					
接り 長期貸付金の貸付による支出					
投 野貸付金の貸付による支出 点 3,690,000 点 4,8 長期貸付金の返還による収入 6,330,000 9,8 引当金運用資金の預入による支出 点 3,500,000,000 点 3,905,5 引当金運用資金の租入による支出 点 5,505,553,859 1,900,0 基金の預入による支出 点 2,442,712,357 基金の私戻による収入 0 その他投資(敷金等)の更収による支出 点 526,000 点 その他投資(敷金等)の回収による収入 243,000 関係市からの繰入による収入 0 財務活動によるキャッシュ・フロー B 点 754,907,500 点 2,292,8 一時借入れによる収入 0 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 点 960,765,380 点 984,2 その他の企業債による収入 0 42,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 42,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 2 2 その他の関係市借入金の返済による支出 0 2 2 を設改良費等の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 0 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 2 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D 2 270,558,964 △ 88	<i>3</i> 7, 792, 495	△ 29			
長期貸付金の返還による収入 6,330,000 9,8 引当金運用資金の預入による支出 △ 3,500,000,000 △ 3,905,5 引当金運用資金の払戻による収入 5,505,553,859 1,900,0 基金の預入による支出 △ 2,442,712,357 活 基金の払戻による収入 0 その他投資(敷金等)の支払による支出 △ 526,000 △ 526,000 本の他投資(敷金等)の回収による収入 0 国県補助金等による収入 0 5,50 投資活動によるキャッシュ・フロー B △ 754,907,500 △ 2,292,8 一時借入金の返済による支出 0 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 0 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 △ 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による支出 0 0 その他の企業債の償還による支出 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 0 その他の関係市借入金の返済による収入 0 0 その他の関係市市人金の返済による収入 0 0 企業債債還の財源に充てるための関係市からの総入による収入 0 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 0 0 0 0 0 財務活動によるキャッシュ・フロー	0		<u> </u>		
資 引当金運用資金の預入による支出 ム 3,500,000,000 ム 3,905,5 引当金運用資金の払戻による収入 5,505,553,859 1,900,0 基金の預入による支出 ム 2,442,712,357 活 基金の払戻による収入 0 その他投資(敷金等)の支払による支出 ム 526,000 ム その他投資(敷金等)の回収による収入 0 関係市からの繰入による収入 0 5,50 投資活動によるキャッシュ・フロー B ム 754,907,500 ム 2,292,8 中時借入金の返済による攻入 0 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 0 984,2 その他の企業債による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 0 その他の関係市借入金による支出 0 0 を他の関係市借入金の返済による支出 0 0 在業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C ム 496,061,114 ム 562,2 資金の増減額 A+B+C D ム 270,558,964 ム 882,0	4, 860, 000				投
資金運用資金の払戻による収入 5,505,553,859 1,900,0 基金の預入による支出 Δ 2,442,712,357 基金の払戻による収入 0 その他投資(敷金等)の支払による支出 Δ 526,000 Δ その他投資(敷金等)の回収による収入 243,000 関係市からの繰入による収入 0 5,5 投資活動によるキャッシュ・フロー B Δ 754,907,500 Δ 2,292,8 中時借入金の返済による支出 0 0 生酸改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 0 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 0 その他の関係市借入金による収入 0 0 を設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 0 その他の関係市借入金の返済による支出 0 0 企業債債還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 0 0 関係市からの出資による収入 0 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C Δ 496,061,114 Δ 562,2 資金の増減額 A+B+C D Δ 270,558,964 Δ 882,0	9, 800, 000				
### ### ### ### ### ### ### ### ### #	***************************************	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		迩
基金の払戻による収入	00, 000, 000	1, 90	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		貝
## その他投資(敷金等)の支払による支出	0		△ 2, 442, 712, 357		
動その他投資(敷金等)の回収による収入243,000関係市からの繰入による収入05,5投資活動によるキャッシュ・フローB △ 754,907,500 △ 2,292,8一時借入れによる収入0一時借入金の返済による支出0建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入449,700,000 407,2建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出△ 960,765,380 △ 984,2その他の企業債による収入0建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入0建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入0を改改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出0その他の関係市借入金による収入0その他の関係市借入金の返済による支出0企業債債還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入15,004,266 14,7関係市からの出資による収入0財務活動によるキャッシュ・フローC △ 496,061,114 △ 562,2資金の増減額A+B+CD △ 270,558,964 △ 882,0	0	***************************************	0		活
助 関係市からの繰入による収入 0 5,5 担資活動によるキャッシュ・フロー B △ 754,907,500 △ 2,292,8 財 一時借入れによる収入 一時借入金の返済による支出 0 務 建設改良費等の財源に充てるための企業債による支出 449,700,000 △ 407,2 表 との他の企業債による支出 △ 960,765,380 △ 984,2 をの他の企業債による収入 0 をの他の企業債の償還による支出 0 動 企業債債還の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 をの他の関係市借入金による収入 での他の関係市借入金の返済による支出 0 の他の関係市借入金の返済による支出 の他の関係市借入金の返済による支出 0 動 投資の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 15,004,266 14,7 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	Δ 40,000				
関係市からの繰入による収入	30, 000		243, 000		垂
投資活動によるキャッシュ・フロー B 本 754,907,500 本 2,292,8 一時借入れによる収入 0 一時借入金の返済による支出 0 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 0 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 0 その他の関係市借入金による収入 0 0 その他の関係市借入金の返済による支出 0 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 0 15,004,266 14,7 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	0		0		蛚
中時借入れによる収入 0 一時借入金の返済による支出 0 財 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 務 その他の企業債による収入 0 財 その他の企業債の償還による支出 0 車設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 事業債償還の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 本業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	5, 582, 000		-		
一時借入金の返済による支出 0 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 △ 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 その他の関係市借入金による収入 0 その他の関係市借入金による収入 0 その他の関係市借入金の返済による支出 0 企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C △ 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0)2, 834, 354	△ 2, 29	△ 754, 907, 500	投資活動によるキャッシュ・フローB	
財 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入 449,700,000 407,2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 △ 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 0 をの他の企業債の償還による支出 0 を設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 を設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 を設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 を表債償還の財源に充てるための関係市のの機分による収入 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C △ 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	0		0	一時借入れによる収入	
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 △ 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 0 その他の企業債の償還による支出 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入 0 をの他の関係市借入金による収入 0 その他の関係市借入金による収入 0 企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C △ 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	0				
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出 △ 960,765,380 △ 984,2 その他の企業債による収入 0 建設改良費等の関源に充てるための関係市借入金による収入 0 建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出 0 その他の関係市借入金による収入 0 その他の関係市借入金の返済による支出 0 企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入 15,004,266 14,7 関係市からの出資による収入 0 財務活動によるキャッシュ・フロー C △ 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	07, 200, 000	40		建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	財
務その他の企業債の償還による支出0建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入0動建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出0その他の関係市借入金による収入0その他の関係市借入金の返済による支出0企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入15,004,266財務活動によるキャッシュ・フローC△ 496,061,114△ 562,2資金の増減額A+B+CD△ 270,558,964△ 882,0	84, 223, 901	△ 98	△ 960, 765, 380	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	
建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入	C	***************************************	0	その他の企業債による収入	7 ₩
活建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出0その他の関係市借入金による収入0その他の関係市借入金の返済による支出0企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入15,004,266関係市からの出資による収入0財務活動によるキャッシュ・フローC △ 496,061,114 △ 562,2資金の増減額A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	O		0	その他の企業債の償還による支出	橯
動その他の関係市借入金による収入0その他の関係市借入金の返済による支出0企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入15,004,266関係市からの出資による収入0財務活動によるキャッシュ・フローC △ 496,061,114 △ 562,2資金の増減額A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	0		0	建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金による収入	
本の他の関係市借入金による収入0本の他の関係市借入金の返済による支出0企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入15,004,266関係市からの出資による収入0財務活動によるキャッシュ・フローC Δ 496,061,114 Δ 562,2資金の増減額A+B+C D Δ 270,558,964 Δ 882,0	0		0	建設改良費等の財源に充てるための関係市借入金の返済による支出	活
動企業債債還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入15,004,26614,7関係市からの出資による収入0財務活動によるキャッシュ・フローC △ 496,061,114 △ 562,2資金の増減額A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	0		0	その他の関係市借入金による収入	
 企業債債返の対源に元くるための関係市からの無人による収入 関係市からの出資による収入 財務活動によるキャッシュ・フロー 資金の増減額 A+B+C D Δ 270, 558, 964 Δ 882, 0 	0		0	その他の関係市借入金の返済による支出	
関係市からの出資による収入0財務活動によるキャッシュ・フローC Δ 496,061,114 Δ 562,2資金の増減額A+B+C D Δ 270,558,964 Δ 882,0	14, 790, 912	1	15, 004, 266	企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入	動
財務活動によるキャッシュ・フロー C △ 496,061,114 △ 562,2 資金の増減額 A+B+C D △ 270,558,964 △ 882,0	0			関係市からの出資による収入	
資金の増減額 A+B+C D Δ 270, 558, 964 Δ 882, 0	62, 232, 989	Δ 56	△ 496, 061, 114		
	82, 053, 656				資金
- 實金期目/沒商 E 2, 185, 393, 980 3, 06 /, 4	67, 447, 636		2, 185, 393, 980		
	85, 393, 980				

(1) 業務活動によるキャッシュ・フローについて

令和5年度の純損益は、568,184千円の損失となった。このうち、減価償却費や長期前受金の戻入、各種引当金の調整をはじめ、未収金の回収等発生した収支の増減等を行った結果、令和5年度の業務活動におけるキャッシュ・フローは、980,410千円となった。

(2) 投資活動によるキャッシュ・フローについて

引当金運用資金の預入と払戻、基金の預入、固定資産の取得による支出、 長期貸付金の返還と貸付等を加味した結果、令和5年度の投資活動によるキャッシュ・フローは、マイナス754,908千円となっている。

(3) 財務活動によるキャッシュ・フローについて

財務活動については、建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入と建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出の増減、及び企業債償還の財源に充てるための関係市からの繰入による収入を加えた結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、マイナス496,061千円となっている。

これら3つの活動の結果、令和5年度末のキャッシュ・フローは、270,559 千円減少し、1,914,835千円となった。

・WI 資金不足比率審査の結果

令和5年度北播磨総合医療センター企業団病院事業会計の決算においては、 流動資産の額が除外措置等を加減した流動負債の額を上回っているため、資金 不足額は生じていない。

※資金不足比率 = 資金不足額 ÷ 事業規模 × 100

この比率が20%以上の場合、経営状況が悪化していると判断され、経営 健全化計画の策定等が必要とされる。

· WⅢ 審査所感

当年度の審査を通じての所感を述べる。

・決算審査に伴う資料作成について

決算審査においては、決算書とは別に独自の資料を提出していただいているが、決算書との金額の齟齬や、同一資料内において随意契約の理由が案件ごとに統一されていない箇所が見受けられた。決算審査の結果に影響を及ぼすものではないが、審査を円滑に実施するためにも、次年度以降の審査では、決算書と資料の金額の照合、随意契約の理由を契約規程第20条に定める1者随契の要件に統一するなど、提出前に資料の精査を検討されたい。

·X むすび

以上が令和5年度北播磨総合医療センター企業団病院事業会計の審査の概要 である。

本年度は、厚生労働省から、国指定地域がん診療連携拠点病院に指定され、 放射線治療室を設置するなど、北播磨圏域において、より専門的ながん診療を 行っているところである。

令和4年度末月から続く病棟の閉鎖については、主要因となった看護師の不足に対して集中的に対策することにより、本年度末月には、閉鎖した2病棟のうち1病棟を再開している。しかしながら、期中の大部分が病床数を2割減じた状態であり、かつ材料費等経費の高騰もあったため、入院、外来単価の増や平均在院日数の短縮はあるものの、当年度の純損益では568,184千円の赤字となった。

現在、病院の増築計画が進行する中、依然として厳しい経営環境下におかれていることから、当該計画どおり進捗するのか懸念している。持続可能な経営体制の構築に努められるとともに、地域医療に影響を及ぼさないよう、残る1病棟についても早期の再開を期待し、むすびとする。

別表

財 務 分 析

表 (北播磨総合医療センター企業団病院事業)

	6	32	丑	場の	72	揺	捯	田田	لاي	_	Κu		46	4	411/	1
備	総資産に対する固定資産の占める割合を示したもので、比率が大であれば資本の 固定化の傾向にある。	総資本額(負債+資本)と、これを構成する固定負債の関係を示すもので、比率が 小さいほどよい。	総資本額と、これを構成する自己資本(資本金+剰余金)等の関係を示すもので、比率が大であるほど経営の安全性が大である。	固定資産の調達が自己資本と固定負債等の範囲内で行われるべきであるとの立場から少なくとも100%以下が望ましく、100%を超えた場合過大投資が行われたものといえる。	固定資産が自己資本等でまかなわれるべきであるとする企業財政上の原則から 100%以下が望ましいとされているが、公営企業は企業債に依存するため高率にな りやすい。	1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債を比較するもので、流動性を確保するため200%以上が理想とされる。	当座比率とも呼ばれ流動資産のうち現金預金及び現金化できる未収金などの当座 資産を流動負債と対比させたもので100%以上が理想とされている。	企業の取引量である営業収益と設備資産に投下された資本との関係で、設備利用 の適否を見るためのものである。	減価償却費を固定資産の帳簿価格と比較することによって固定資産に投下された 資本の回収状況を見るためのものである。	現金預金回転率、未収金回転率、貯蔵品回転率等を包括するものであり、これら の回転率が高くなれば、それに応じて高くなる。	企業の取引量である営業収益と未収金との関係で、未収金に固定する金額の適否を測定するものである。	投下された資本の総額とそれによってもたらされた経常利益とを比較したものである。 る。	総利益と総費用を対比したものであり、収益と費用の総体的な関連を示すものである。 る。	経常収益(医業収益+医業外収益)と、経常費用(医業費用+医業外費用)を対比した ものであり、経常的な収益と費用の関連を示すものである。	業務活動によってもたらされた医業収益と、それに要した医業費用とを対比して業務活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断される。	(
令和4年度	75.4	58.4	23.2	92.4	325.1	133.6	130.4	1.03	9.5	2.94	5.88	2.3	102.6	102.7	94.5	(株を掘い光音
令和5年度	76.0	59.2	20.2	95.7	376.9	116.5	113.7	1.09	6.6	3.40	80'9	△ 2.3	97.0	9.7.6	93.0	11 アルス 旧1
算式	資 <u>産</u> ×100 資 <u>産</u> ×100	負 債 X100 資 本 X100	評 価 差 額 等 + 近 収 益 ×100 資 本	2 <u>資 産</u> 群 ×100 評 価 差 額 + ×100 債 + 繰 延 収 益	<u>資産</u> F価差額等+ 収益	河包	金 + 未 収 金 負 債 ×100	加 定 資 産	減 佰 億 均 額 却 資 産 + ×100 減 佰 賃 担 額	4 動 資	収 益 未 収 金	描 棋 彩 資 春 ×100	坂 棋 ×100	収 益 ×100 費 用	坂 雄 ×100	公がサ ※ の管用は 今里 生業目 声 1 後の管子 1 下 1 で 1 1 7 1 7 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
100000000	固総	国線	海 森 本 十 二 二 二	固 資 本 + 固定 負 (国 定		現 金 預 流 劇	M H & & & & & & & & & & & & & & & & &	当 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年	老貅、	M H M M M M M M M M	湖上	業業	姓 姓	图 图 素 業	計算維目は
	及 比 率	及比	A 比	産対長期資本比率	∦	掛		青	哲	青	青	相	开	开	科	当日子
項目	産構成	青構 成	な 構 成	長期貸	丑	丑	艦	囲	賃	用	回	承	₩	₩	₩	ナ核の値
桥	資	三負債	資	定資産対	闬	働	和	近資	角	動質	以 金	資本	以	常収	業	今折り
分	固定	固定	ш П	固定	垣	润	整	国	鬞	浜	#	線	貘	凝	闲	(共)
	構成比率				財務上	2 掛	×		回址	持			<u></u>	祖 崇	***************************************	

⁽注) 分析比率の算出は会計基準見直し後の算式により算出している。但し、備考欄は徒前の記述による。 (注) 算式の「平均」とは、(期首+期末)/2とする。 (注) 令和5年度の勘定科目設定変更に伴い、比較する令和4年度の内訳数値を変更している。